

第6学年 図画工作科学習指導案

第6学年 15名
指導者 藤本 奨
授業場 音楽室

1 題材名 筆あとと研究所 < B鑑賞 A表現(2) イ 絵に表す >

2 題材設定の理由

本題材は、美術作品の表現の工夫の1つである「筆あと」の特徴から、作者の表現の意図や思いを感じ取る鑑賞活動から学習が始まる。児童にとって有名な絵画といえばムンクの『叫び』や葛飾北斎の『富嶽三十六景』などがあげられるだろう。本題材では教科書に掲載されているゴッホの『星月夜』などの「筆あと」に特徴がある作品を鑑賞する。「筆あと」に特徴がある絵画を見て、児童は「おもしろい絵だな」「なぜ、こんな描き方をしているのだろう」「この描き方に意味があるのかな」など、直感的に感じ取った初発の感想を自由に発言するであろう。そして、児童に作者の思いをとらえるための観点を示すことで、作品に対して新たな価値や意味を見出す鑑賞活動につながると考えた。児童は形や色、質感、タッチなどの「筆あと」を手がかりにして、感じ取った思いや作者の思いに対する考えをグループの中で話し合い、まとめていくという活動の中で、今まで自分の中にはなかった考え方にふれ、互いの考えのよさを認めながら、更に自分の考えを深めていくことができる。鑑賞作品の「筆あと」からイメージしたことを表現する段階では、作品から受けた思いを基に表現材料や方法を思考しながら表現に取り組めるので、今後の表現活動に「筆あと」を生かすことも期待できる。

本学級の児童は、明るく活発で何事にも前向きに取り組むことができる。図画工作科の学習においても、「なこともしてみたい」「次の活動を早くやりたいな」と意欲的に学習に取り組んでいる。『名前アート』(5月)では、自分の名前を使って絵を描き、鑑賞活動を行った。どんなテーマで描いたのか、見所はどこかなどクイズ形式で鑑賞活動を行い、自分が感じ取ったことを意欲的にどんどん発表する姿が見られた。また、『墨で表す』(6月)の学習では、水墨画の特徴である技法や用具を使って、それぞれの思いを込めた水墨画を製作した。児童は水墨画を描くという共通体験をしたことで、「かすれの表現がおもしろい」「墨がにじんで、色の変化がすごくきれい」などの自分の体験と結びつけた表現ができるようになってきた。しかし、「さんは を表したかったんじゃないかな」などの作者の思いにつながる発言をした児童は一部であった。本題材で扱う『星月夜』『グランド・ジャット島の日曜日の午後』『遊園地』『天空星急先鋒』の作品は「筆あと」の特徴がとらえやすく、作者の思いや意図を想像し、言葉として表現するのに適している。これらの作品とかわることを通して、作者の思いや表現の意図を捉え、自分から進んで、友達と話し合える児童、そして学んだことを自分の作品に生かしていく児童を育てたいと考えた。

指導に当たっては、まず、前述の4つの作品とであい、児童が直感的に感じ取ったことを表現する機会を大切にしたい。次に、自分が気になる作品を決めて、形や色、タッチなどの「筆あと」から受ける印象や作者の思いについてワークシートにまとめていく。絵全体の印象を捉えやすいように、大判の作品掲示物を用意したり、「筆あと」の細かな部分をズームしてとらえることができるようICTを活用したりする。個人での鑑賞から班での鑑賞、学級全体での鑑賞の時間を設け、感じ方の共通点や相違点を確かめながら、作者の思いについて迫っていきたい。「筆あと」を試す際には、小さな画用紙に自分が選んだ絵画の「筆あと」を試し、「点をたくさん描くと優しい感じがする」「濃く絵の具を伸ばすと力強い感じがする」など、気付いたことをワークシートにまとめていく。その後、八つ切り画用紙に「筆あと」を生かして、自分のイメージしたことを表現できるようにする。作品を完成させてからは、自分の作品にタイトルをつけ、「筆あと」から受けるイメージを中心に振り返りをする。この題材を通して、作品を鑑賞する際に「筆あと」などを手がかりに、作者の思いや表現の意図をとらえ「あっ、そうだったのか」とか「この『筆あと』を生かして表現したいな」といった、鑑賞活動を通して、新たな価値を見出そうとする児童を育てたいと考え、本題材を設定した。

3 題材の目標

「筆あと」を意識して美術作品を見ることを楽しむことができる。(造形への関心・意欲・態度)
美術作品からとらえた「筆あと」を試して、表したいことを考えることができる。
(発想や構想の能力)

「筆あと」を意識して、表したいことの形や色などを工夫することができる。(創造的な技能)
美術作品を見て、「筆あと」から感じた印象や作者の思いを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
「筆あと」を意識して美術作品を楽しもうとしている。	美術作品からとらえた「筆あと」の特徴から、表したいことを考えている。	「筆あと」を意識して、表したいことの形や色などを工夫している。	美術作品を見て、「筆あと」から感じた印象や作者の思いを感じ取っている。

5 指導と評価の計画 (全4時間 本時2/4時間)

時間	学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第一次 (二時間)	<p>個人で美術作品を鑑賞し、作品の特徴をまとめ、次時への学習意欲を高める。</p> <p>グループごとに美術作品の「印象」「作者の意図」について話し合う。 (本時2/4時間)</p>	<p>「筆あと」を意識して美術作品を楽しもうとしている。 (観察) (ワークシート)</p>			<p>美術作品を見て、「筆あと」から感じた印象や作者の思いを感じ取っている。 (観察) (ワークシート)</p>
第二次 (二時間)	<p>「筆あと」の工夫を自分の作品に取り入れて、絵画を製作し、題名をつける。</p> <p>○ 完成した作品をお互いに鑑賞する。</p>		<p>美術作品から自分がとらえた「筆あと」の特徴から、自分なりの表現を工夫している。 (観察)</p>	<p>「筆あと」を意識して、表したいことの形や色などを工夫している。 (観察) (作品)</p>	<p>友達の作品のよさや表現への思いを感じ取っている。 (観察) (ワークシート)</p>

6 本時

(1)目標

美術作品の表現の工夫の1つである「筆あと」の特徴から，作者の表現の意図や思いをとらえることができる。

(2)展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
5分	1 本時の学習活動のめあてをつかみ，活動に意欲をもつ。	前時の学習を振り返り，本時の活動のめあてを確認させる。		
	「筆あと」の特徴から，作者はどんな意図や思いで描いたのか考えよう。			
15分	2 各絵画の班に分かれて話し合う。 (1) 絵画から受ける印象 (2) 作者がどんな思いで描いたのか	細部まで鑑賞できるようにパソコンと大型スクリーンを使用する。	「筆あと」から感じた印象や作者の思いを感じ取っている。 【鑑賞の能力】	観察 ワークシート
15分	3 班でまとめた内容を全体の前で発表する。	○ 受けた印象や作者の思いだけでなく，その根拠やそれが表れている場所を明確にして発表させる。		
5分	4 絵画の「筆あと」を自分で試す。	○ 小さな画用紙に，本時に出てきた「筆あと」を試しがきさせる。		
5分	5 本時の学習を振り返り，次時への意欲をもつ。	○ 次時の作品製作への意欲を高める。		

(3)評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断できる状況	<ul style="list-style-type: none"> 「筆あと」から感じた印象やそれぞれの作品のよさ，作者の思いを感じ取り，自分の考えを伝え合うことができる。 <p style="text-align: right;">【鑑賞の能力】</p>
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 「筆あと」に注目しやすくするために，パソコンを用いて大型スクリーンでアップやロングを行う。 筆あと研究ヒントカードを用いて，注目すべきポイントを明確にする。 印象や思いなどの感じ方は一人一人違うので，共通点や相違点がたくさん出ることが大切であることを伝える。 <p style="text-align: right;">【鑑賞の能力】</p>

